

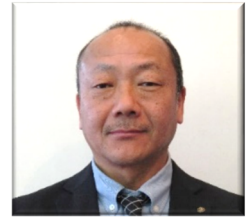


国際ロータリークラブ第2620地区 2023-2024年度

RI会長 ゴードンR.マッキナリー

会長 竹田 浩富 幹事 伊原 謙治

朝霧アリーナより



竹田 浩富 会長

例会場 富嶽温泉 花の湯 例会日 毎週金曜日 月の最終週は夜間

事務所 〒418-0003 静岡県富士宮市ひばりが丘805 富嶽温泉 花の湯内 公式HP <http://fujinomiya-west-rc.com/>TEL.0544-23-2122 FAX 0544-23-2122 Mail fujinomiyawestrotary@mountain.ocn.ne.jp**No.4 通算 1535 号 2023年 7月 28日(金) ☆夜間例会****ゲストビジターの紹介**

国際ロータリー第2620地区カバナー

中村 皇積 様

2620地区副幹事 前島 正容 様

第二分区カバナー補佐 勝又 洋 様

会長挨拶

会長：竹田 浩富 君

会員増強に向けて

本日は、2023-2024年度浜松ハーモニーRC 中村皇積ガバナー・富士宮RC前島正容地区副幹事・静岡第2グループ御殿場RC勝又洋ガバナー補佐がお越しになっています。先ほど私と幹事6人で会長幹事会を行わせていただきました。中村ガバナーより、会長エレクト研修セミナーと地区研修協議会の感想をということで言われておりますのでその話をいたします。

まず会長エレクト研修セミナーについてです。午前の本会議は、会長エレクト研修セミナーの意義、次期RI会長テーマ及びイニシアチブの解説、次期地区年度計画について、ということで中村ガバナーより説明がありました。午後からは分かりやすい行動計画とDEIの講話がありました。次に分科会1ということで(山中湖・南アルプス・三島西・静岡中央・榛南・浜松ハーモニー・甲府南・富士宮西)8クラブの会長エレクトが村松友吉パストガバナー司会で現クラブの問題点や解決策、成功事例、各クラブの強みなど話し合いました。その中でやはり会員の減少、増強の仕方退会防止はどうしているのかの話に集中しました。その問題についてはサークルや同好会への誘いが効果的というクラブが多くありました。具体的な問題点としては、若いメンバーが少ない・女性のメンバーが少ない

又はいない・年配のメンバーと若い人のギャップなどがあげられました。また解決策や成功事例については日本酒同好会・グルメ同好会・カラオケ同好会でうまく退会防止をしているクラブがありました。これは楽しみながら参加できる会ということが大切なようです。個人の趣味とか好きなことには前向きになって参加する気持ちはよく分かります。また若いメンバーに委員長などの役をやってもらう、これは非常に良い考えかもしれませんが、あまり重責な役ですと逆効果になるかも知れないという意見もありました。以上が地区協での、現クラブの問題点や解決策の内容です。

やはり各クラブ共同問題を抱えながら、いろいろ工夫していると思いました。当クラブでも7月18日にクラブメンバーの方がやっている居酒屋で、会員増強ための懇親会を開きました、今後も2カ月に1度程度開きたいと思っています。

次に地区研修・協議会についてですが、これも分科会に参加したときの感想です、会長・幹事部会に出席しました、その話の中で今日は、会員増強のことについての話です。印象に残っているのは、新会員を輪の中に迎えよう、新会員を知りクラブへの愛着を提供しよう、ということで43年前の感動の入会式を動画で流していただきました。参考例ということでしたがすごく感動的で良くできた入会式の模様でした。今年度入会者が出来た時はこのような入会式ができれば、入会者の方にも記憶に残る入会式になると思います。

何とか今年度増強を強化して純増3名目指して行きたいと思いますので皆さんの協力をお願いします。

幹事報告

幹事 伊原 謙治 君

*別紙 幹事報告参照

出席報告

	会員数	計算会員数	出席	欠席	MU	比率
今週	23	22	19	3	0	86.4%

☆は出席免除者

欠席者：☆外木規之 仲亀秀樹 早川英寿 石川俊洋

お祝い・記念日

○会員誕生日 7.31 渡邊 奈津実 君

○創業記念日 s36.8.1 岡村 吉彦 君

○創業記念日 H1.8.1 大谷 裕也 君

本日のスマイル

○中村皇積カバナーの公式訪問を歓迎…貫名英舜君

○中村皇積カバナー、本日はご指導よろしくお願ひします…若林眞治君

○中村カバナーには暑い中のご来訪ありがとうございます…石田道彦君

○中村カバナーいらっしやいませ。本日はよろしくお願ひ申し上げます…伊原謙治君

○中村カバナーの当クラブ来訪に感謝。また、RLI ではお世話になりました…近藤憲司君

○胃カメラほっと一安心…遠藤寿男君

本日のプログラム

国際ロータリー 第2620地区カバナー

中村皇積 様《カバナー公式訪問・講話》

*重点抄録

さて、かつてのリーダーは、【ビジョンある行動は世界に希望をもたらす】と言いました。本年度会長 ゴードン・マッキナリーさんも【世界に希望を生み出そう】という言葉で同じ表現をされています。そう、ロータリーのリーダーシップは、引き継がれ、時代に即して進化していくものなのです。年度年度の会長テーマは、このようにビジョンを達成・推進するためのアプローチとして、その時々の時勢に即して示されます。今こそ、希望を生み出す行動が求められています。ゴードン会長は、私たちが共有するビジョンを示し、私たちの使命である平和への取り組みを呼びかけられました。私たちのビジョンには2つの視点が含まれています。



一つは【世界で、地域社会で】、もう一つの視点は【自分自身の中】です。ゴードン会長は、この両面において、希望を生み出す土壌となる平和への取り組みを強調され、世界に希望を生み出そうと示されました。

私たちは常に、内面に何かを抱えているものです。人に仕える Service、気遣い、寄り添うまごころ、Fellowship は、私たちの最も得意とすることで、世界にも、私たちの内面にも穏やかな希望を生み出します。皆さまの活動全ての目標は希望を取り戻すことです。私たちが得意とすることを継続するとともに、変化に対してオープンで前向きになり、世界と自分自身の中に平和を築くことに力を注げば、私たちは、より平和で、より希望のある世界を築く手助けができます。皆さまのご献身に感謝を申し上げ、公式訪問とさせていただきます。

■カバナー公式訪問講話 NOTE (会報筆録再編)

～会員増強・退会防止について提言に注目して～

米国オークランドで開かれたロータリー国際協議会が開催され、ゴードン会長からテーマ「世界に希望を生み出そう」について、また、ビジョンと行動計画についての説明がなされました。

ゴードン会長はプレゼンにおいて「継続」という概念を強調しました。継続とは基本的にこれまでロータリーが取り組んで来たプログラムを続けることですが、思考を止めて、ただ同じことを続けるということではありません。社会は常に変化します。したがって、人々のニーズも変わります。このニーズに応じて奉仕の事業を展開するということが必要であるということです。例えば、食料を足りないところに食料を届けるという従来型から、食料の作りかたを教えて現地で自立的に生産することで社会の安定をもたらすという形にシフトして、この事業を継続するということです。

ロータリーの社会奉仕は、そのクラブがある地域に対する奉仕ということですが、その奉仕を行う場合に、その地域の人々が何を欲しているか、あるいは、何に困っているかを見出すことが必要です。そのためには、地域の人々の声に耳を傾ける、地域の人々に寄り添うということが必要となります。

さて、ロータリーの奉仕とは何でしょうか。先日、新潟で国際青少年交換研修会が開催され、右近いろはさんのウクライナでの支援活動についての報告がなされました。ロシアによるウクライナ侵攻によって、家族が分断され、また故郷を離れて他国に避難した多くの人たちが

います。この人たちに対して自分として何をしてあげられるのかを考えた時に、ウクライナの隣国ポーランドに来ていたといえます。

何に苦しんでいるのか、それに対して自分として何ができるのかを考え、行動と実践に移すことは、ロータリーの「超我の奉仕」の基本精神に通じるものです。

まずは、現状を把握して、苦しんでいる人たちに「希望をもたらす」ために何ができるかを考え、実践に向かうことがロータリーの奉仕であるということです。

「世界に希望を生み出す」という理念に一つの型を示したのが、ロータリー財団が進めるエンド・ポリオです。世界の未来の子どもたちが輝きをもって生きることのできる世界を作るためのものであります。2620 地区はこのエンド・ポリオの実践を【古着でワクチン】という独自の企画において行おうとしています。

さて、日本のロータリーは会員増強という点で停滞していると言われていました。アジアのある国の街頭で「あなたはロータリークラブを知っていますか」という質問に対する答えは「Off Course/もちろん」でした。なぜ、この答えが出てきたか。「ロータリーは私たちの地域のためによいことをしてくれる」ということがその背景にあります。ロータリーの社会奉仕は地域の人たちにとって必要なことを継続的に行うところにあります。また、ロータリーの奉仕は「ロータリーの心をあなたの住むところ、私たちの世界、そこに住むすべての人々に (97-98 グレン・W・キンロス)」という表現に見られるように、地域の人々に対するフェロシップが具体的な奉仕の行動を生み出すことになるものとして定義されています。

地域にとって必要な事業を行うこと…その地域の人たちが未来に希望を見いだすこと…がロータリーの存在性を生み出し、知名度、認知度を上げていくことにつながるものだと考えて下さい。こうした事業を行う中で、ロータリーに加わりたいというモチベーションを生み出すことになり、新しい会員を見いだすことにつながっていくものだと考えます。

また、ゴードン会長は会員を増やすという行動の他に、会員がクラブ内においていかに満足するかということにも配慮するべきだと言います。「2つの平和」とは、一つは世界の平和（パンデミック以後の社会的混乱、戦争による食糧危機、エネルギー危機などによる経済的混乱など）への対応、経済格差への対応、災害支援への対応など）のことですが、もう一つ、会員の内的な満足というメンタルな問題があります。

会員がなぜ退会するかという問題を考えた時に、人とのつながり、あるいは絆という問題を考えなければなりません。今、情報テクノロジーに関して大きな変革期にあります。10 年前には考えられなかった高度なデジタル・テクノロジーが我々の周辺に普通に存在している状態にあり、もう、以前のローテクの時代に後戻りができない社会状況にあります。この産業と社会の変化に高齢者はとまどいとストレスを感じ、自分は取り残されて、「孤立」していると感じる人たちを生み出しています。それはロータリーの内部も例外ではないのです。つまり、クラブの中で孤立し、会を去らなければならないと感じている比較的高齢の会員がいるということです。意欲的な若い世代の会員が、こうした人たちをサポートすることが必要ではないでしょうか。

また、多様性に向かうといことにおいてそれに順応できない人たちもいます。その人たちに対して、多様な価値観を紹介し、社会では当たり前になりつつあることの情報共有の機会が必要です。そのためには、女性会員が多く参加し、発言を求めるような形が必要です。

最後に、もう一度、「世界に希望を生み出そう/ Create Hope in the World」という標語を再度検証してみましよう。

「まごころ」と平和への招待状であり、世界へ、そして自分自身への癒やしの証しでもあります。これまでのロータリーのリーダーの取り組みを発展的に継続しつつ、前進させて行く先に世界に希望を生み出すことができると信じます。

以上 *会報 貫名英舜